

鹿児島港の概要

鹿児島港は、錦江湾のほぼ中央部の薩摩半島側に位置し、大隅半島や離島など県内をむすぶ人流・物流の拠点、また錦江湾や桜島といった雄大な自然を有する国内外の交流拠点として重要な役割を果たしています。

また、広大な静穏水域や変化に富んだ海岸線など優れた自然資源を有する錦江湾に囲まれ、眼前には雄大な桜島がそびえ立ち、背後には「東洋のナポリ」とも称される鹿児島市の市街地が隣接する自然景観、歴史、文化に恵まれた港湾であり、国内外のクルーズ船の寄港地としても利用されています。

その港湾区域は南北約20kmにも及び、本港区、新港区など7つの港区に分かれており、それぞれの港区毎に機能分担が図られています。



鹿児島港の歴史

鹿児島港（現在の本港区）の歴史は、島津家5代貞久が興国2年（1341年）頃に多賀山の東福寺城（現在の多賀山公園）を6代氏久の居城としたときに始まると言われています。

その後、慶長7年（1602年）に18代家久が鶴丸城に居を構えてから城下町として発展し徐々に埋立を拡大していきました。



一丁台場



新波止

鹿児島港のあゆみ

明治33年～明治38年	明治の大改修(本港区 物揚場等築造)
明治40年(1907) 10月	「第2種重要港湾」指定(内務省告示)
大正 8年(1919) 7月	「開港」指定(旧関税法)
大正11年(1922) 5月	国の指定港湾となる。(内務省告示)
大正12年～昭和9年	大正・昭和の大改修(本港区 防波堤等改修)
昭和25年(1950) 6月	植物防疫法「輸入可」港指定
昭和26年(1951) 1月	「重要港湾」指定
昭和27年(1952) 1月	検疫法「検疫港」指定
昭和28年(1953)	旧南港区着手(昭和35年供用, 昭和41年概成)
昭和34年(1959) 11月	港湾計画を策定, 港湾審議会承認
	新港区着手(昭和40年供用, 昭和47年概成)
昭和39年(1964) 11月	港湾計画改訂, 港湾審議会承認
昭和40年(1965) 7月	旧木材港区着手(昭和44年供用, 昭和49年概成)
	港則法「適用港湾」「特定港」指定
昭和41年(1966)	谷山一区着手(昭和47年供用, 昭和60年概成)
昭和46年(1971) 7月	港湾計画改訂, 港湾審議会承認
	谷山二区着手(昭和51年一部供用, 昭和61年概成)
昭和47年(1972) 2月	港湾区域を拡大し浜平川港編入
	鴨池港区着手(昭和50年供用, 昭和60年概成)
昭和48年(1973) 12月	港湾計画改訂, 港湾審議会承認
昭和57年(1982) 6月	港湾計画改訂, 港湾審議会承認
昭和61年(1986) 1月	本港区再開発整備に着手
平成 4年(1992)	本港区北ふ頭埋立竣功
平成 5年(1993) 6月	港湾計画改訂, 港湾審議会承認
	本港区北ふ頭旅客ターミナル供用開始
平成 8年(1996) 4月	谷山臨海大橋供用開始
平成 9年(1997)	いおワールドかごしま水族館開館, 本港区南ふ頭埋立竣功
平成10年(1998) 4月	桜島フェリーターミナル供用開始
平成11年(1999) 12月	「マリポートかごしま」廃棄物埋立護岸工事着手
平成12年(2000) 8月	天保山シーサイドブリッジ供用開始
平成14年(2002) 9月	本港区南ふ頭旅客ターミナル供用開始, ウォーターフロントパーク供用開始
平成19年(2007) 4月	種子・屋久高速船旅客ターミナル供用開始
	9月 「マリポートかごしま」1期1工区供用開始
平成23年(2011) 11月	新港区改修工事(耐震強化岸壁(-9m))着手
平成26年(2014) 3月	新港区(奄美・沖縄フェリーターミナル) 供用開始
	黎明みなと大橋供用開始
平成28年(2016) 7月	「マリポートかごしま」1期2工区供用開始
平成30年(2018) 2月	「臨港道路鴨池中央港区線」工事着手
平成30年(2018) 4月	「かごしまクルーズターミナル」供用開始
	本港区北ふ頭に国際クルーズ船初寄港
	鹿児島港が「国際旅客船拠点形成港湾」に指定
平成31年(2019) 3月	連携するクルーズ船社(ロイヤル・カリビアン社)と「鹿児島港クルーズ拠点形成協定」を締結
令和 2年(2020)	旧木材港区の埋立着手, ドルフィンポート跡地暫定活用開始
	6月 新港区改修事業完了
令和 4年(2022) 3月	マリポート2号岸壁の整備完了
令和 5年(2023) 3月	マリポートかごしまに初の国際クルーズ船2隻同時接岸
令和 6年(2024) 3月	鹿児島港に初の国際クルーズ船3隻同時接岸

鹿児島旧港施設(土木遺産)

藩政時代から明治にかけて数多くの波止(防波堤)、岸岐(岸壁、物揚場)が築造され、現在でも、新波止(1844～1853年頃)、一丁台場(1872年)とその接合部分の遮断防波堤(1904年)で、往時の姿を見ることができます。

なかでも最古の「新波止」は、薩摩最大の砲台が置かれ、大砲船の訓練拠点として利用されていたといわれていますが、昭和62年(1987年)、本港区の再開港で新波止、一丁台場、遮断防波堤は海側が埋め立てられ、緑地公園の護岸として生まれ変わりました。ここには遊歩道も設けられ、鹿児島港の歴史上に果たしてきた役割を歩いて顕彰できるようになっています。

また、平成19年12月に鹿児島旧港施設(新波止、一丁台場、遮断防波堤)として国の重要文化財に指定されました。